

1 自己評価及び外部評価結果 A棟

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「真心」とは思いやりの心です。人を思う心を常に心に留め、入居者様一人ひとりと向き合い、それぞれが自分らしく安心して暮らし続けられるようプライバシーに配慮しながら、個別ケアに力を入れ取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.akita-longlife.net/evaluation/

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念を具体的な支援に繋げていくためにユニット毎に理念をつくり、ケアの目標としています。職員が十分に話し合っつくり上げたものであり、それに沿った暮らしとはどのようなかささまざまな場面で振り返り、利用者の立場にたった支援が行われています。毎年、職員がテーマを決めて研究発表を行っており、その取り組みの過程でアセスメントの大切さを再認識し、経験を共有してサービスの質の向上に繋げています。感染症対策のために現在は自粛していますが、毎月認知症カフェを開催し、昔からの関わりを通して地域交流と地域貢献を大切なものとして運営されています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 54-60.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の担い手として、充実したサービスを提供していけるよう理念に沿いながら日々実践につなげている。	職員の研究発表や看取りを通じて日常のケアを振り返り、理念の共有と実践に向けて努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の中で交流することができていないが、それまでは毎月認知症カフェを開催したり梵天や運動会など地域の行事に参加していた。状況が落ち着けばまた交流する機会をつくっていききたい。	地域向け広報の配布や認知症カフェの開催を通して地域と交流を深め、ホームとしての役割も担っています。利用者にとっては訪問販売で買い物できるのが今の楽しみになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談窓口を設置しており、R2. 2月までは月1回、認知症カフェを開催し地域の皆様と認知症について学ぶ機会をつくっていた。状況が落ち着けば再開したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、書面にて運営推進会議を実施した。防災など様々な対策についての助言や意見をいただきながらサービスの向上に活かしている。また、身体拘束等適正化委員会も会議を活用し実施している。	現在は書面上の会議となっていますが、ホームの取り組みを詳細に報告しています。いただいたコメントに対して対応を報告し、サービスの向上に活かせるよう努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みについて不安な点や分からないことがあればその都度、市町村担当者へ相談し、日頃から協力関係を築いている。	運営推進会議で状況報告している他、地域ケア会議等を通じて、また、窓口に出向いて協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会による指針に基づき、身体拘束に関する更なる知識を高め、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修で理解を深めている他、チェックリストを使用して業務を振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止及び虐待防止委員会が中心となり内部研修を行い、「虐待の芽を摘む為のチェックリスト」を活用し、自他共にチェックしながら虐待を見逃ごさないよう注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人を取り巻く環境を考え、権利擁護を利用する段階かどうかを本人・家族そして関係者と話し合ったケースもある。今後も制度について学ぶ機会をもち、活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約又改定の際は、文章をもとに十分な説明を行い理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は書面によって双方の意見交換を行った。いただいた意見等を参考に運営に反映できるよう努めている。	面会を制限しているため状況報告を行って電話によるこまめな連絡をとっている他、利用料を持参してくれる家族もいて話しやすい関係を大切に、サービス提供に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議や各委員会を通し職員の意見や提案を聞く場を設ける他、日頃より現場の声に耳を傾け現状を把握し、運営に反映できるよう努めている。	職員の意見等は管理者を通じて法人に伝えられています。管理者はユニットリーダーを通じて状況を把握しており、職員は朝礼で情報交換してユニット間の連携を図り、運営に反映できるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、日頃の勤務状況を把握し職員処遇の反映や向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染拡大防止対策の為、外部研修には参加していないが、事業所内での研究発表や内部研修に力を入れ技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話での情報交換以外、現在同業者との交流はできていない。コロナが終息したら以前のように同業者との交流する機会をつくっていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前から、本人の不安に思う事や要望等に耳を傾け安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学やサービスを導入する前から家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出来る事や役割を見つけ共に学び、支え合いながら暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人そして家族の思いを受け止め家族の絆を大切にしながら、本人を共に支え合う関係を築けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大防止為の外出や面会等を自粛しており、馴染みの人や場所へ行く機会が少ないが、関係が途切れないよう工夫しながら支援に努めていきたい。	これまで行ってきただけでできない状況が続いていますが、家族とは電話等で関係の維持に努めています。認知症カフェは馴染みの方々と交流できる良い機会であり、感染症の終息を待って再開の予定にしています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに役割分担をして洗濯物を干す方やみんなのコーヒーカップを下膳してくれる方など、利用者同士が協力し合い、支え合える場面をサポートしながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向に添えるよう耳を傾け支援に努めている。	利用者一人ひとりの生活歴や性格の理解に努め、日常の関わりをアセスメントすることで個別のケアに繋がっています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の会話の中から得た情報や家族からの情報をもとに生活歴や生活リズムを把握し、これまでの生活が継続できるよう支援に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等、職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、生活全般においての課題を見つけながら、それぞれの意見やアイデアをサービスに反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員と介護支援専門員が中心となってモニタリングし、ケア会議やミーティングで他の職員の意見を参考にして介護計画を作成しています。家族にも支援内容を評価していただき、意向を反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に沿ったサービスの提供による気づきや結果などを記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外出が出来ない代わりに、訪問販売での買物を楽しんでもらっている。安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、これからも支援していきたい。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診や本人の状態に応じて適切な医療が受けられるよう、主治医の指示を仰ぎながら協力医療機関と連携を図っている。	利用者の状態に応じて運営母体の医院と連携しながら適切な医療が受けられるよう支援しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	コロナ感染拡大防止の為、現在は週1回正看護師に日常の健康状態を報告をしている。いつもと違う変化がみられる際は、随時報告し適切な受診が受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人と家族が安心して治療できるよう病院関係者との情報交換や相談を重ね、できるだけ早期に退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針に基づきながら、終末期に関して事業所側としてどこまで支援できるのかを十分に説明し、本人や家族、医療関係者と連携を図りながら悔いのないケアを提供できるよう支援に取り組んでいる。	これまで多くの看取りを経験しています。家族はもちろんのこと、職員も悔いの残らないよう連携して支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、迅速に対応できるようマニュアルの確認や見直しを行っている。また委員会を中心に内部研修を行い実践に活かされるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡方法として新たにグループラインを活用。また地域の避難場所や建物の構造等を再確認し、地域との協力体制を整えている。	毎月点検項目に沿ってホームの環境をチェックし、非常口のスロープ及び、避難場所の不備を認識しています。近隣の協力を得やすい環境にあることから避難体制を再検討し、訓練に取り組まれることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について内部研修を行い、プライバシーに配慮した関り方を学び実践に活かしている。	委員会が中心となって研修を行い、声かけの仕方や排泄時、入浴時の介助に配慮した支援ができるよう取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く意思表示ができない方に対しても表情で察したり、言葉を引き出せるような対応をし自己決定ができるよう努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、できる限り本人のペースに合わせて一日を過ごすことができるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ感染拡大防止の為、外出の機会が少ないが行事がある日は、いつもとは違った服を選んだり近隣の散歩に行く際は帽子を選んだりとお洒落を楽しめるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をメニューに盛りこんだり、おかずの盛り付けや食器洗い等の過程の中でテーブルを囲んで食事をするのが楽しみの一つになるよう支援している。	季節の食材で食事を提供し、テラスで食事したりして楽しく食事ができる工夫をしています。利用者ができることは少なくなりましたが、調理方法を教わったりしてできる限り調理の過程で関わられるよう取り組んでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減に気を付けながら、食事量の調整や食べやすい形態を工夫している。お茶が苦手な方には葛湯など代替のなる物を主に提供し、夏場は塩分が入ったスポーツドリンクなどで水分確保に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	上手く義歯を外せず混乱する方や義歯の洗浄中に不安になる方もいる為、一人ひとりに合わせながら口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	個々のパターンに応じて支援しており、その人の状況に応じてチェックリストを作成しています。具体的な対応を繰り返し検討しながら介助し、排泄用品の軽減に繋がった事例もあります。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹筋を使いながらの口腔体操や軽運動、歩行訓練など適度な運動を行い便秘予防に取り組んでいる。メニューには乳製品の物も提供しているが、個人でヤクルトやヨーグルト、牛乳を好んで購入している方もいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂が好き、湯加減はぬるめが良いなど一人ひとり希望やその日の体調に合わせて、楽しく入浴していただけるよう柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本として利用者の希望する入浴の実現のための努力をしており、車椅子の利用者の気持ちを押し量り、浴槽に浸かってゆっくり入浴できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状態に応じて休息を促している。夜間、眠れない日も居間でゆったりと過ごせるよう見守り、タイミングを見計らいながら自室へ誘導し、安心して眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方内容と薬を照らし合わせながら目的や効能、副作用、用量の把握と理解に努めている。症状に変化や気になる点がある際は主治医、看護師又は薬剤師に相談し対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	指先の器用な方、几帳面な方、家事仕事が好きの方など一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとを通して喜びや生きがいに繋がるよう支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で家族の方との外出や地域行事への参加はできていないが、天気の良い日はいつでも散歩へ出掛けられるよう外出の機会をつくっている。	感染防止のため外出の機会は減少していますが、利用者の希望にできる限り沿えるよう検討し、工夫しながら対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じてお金を所持している方もいる。毎週ヤクルト販売員が来てくれる為、自分で商品を選び、財布からお金を支払い買い物を楽しむ機会となっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染拡大防止の為、面会を自粛していることから、いつも以上に家族へ電話のやり取りができるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう棟内を季節の花や絵を飾り雰囲気味わえるよう工夫している。天井は高く適度な光が入り、廊下は広いため解放感がある。窓からは田んぼや栗の木、桜や竹林が見え季節の移り変わりを楽しむことができる。	廊下は広々として明るい空間となっており、必要と思われる場所に椅子が置かれて快適に過ごせる配慮がみられます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟内にはソファを設置しベランダにはベンチを置いている為、好きな時にテラスで外の景色を楽しむ方や気の合う仲間と会話を楽しむなど、自由に過ごせるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し使い慣れた物や家族の写真などを置き本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	希望を聞いて持ち物を配置し、本人が安心して過ごせる環境づくりに努めています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも目的の場所に移動ができるよう居室やトイレには目印を付けるなど安全にかつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		